

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100493		
法人名	有限会社大塚台夕月		
事業所名	グループホーム大塚台		
所在地	宮崎市大塚台東1丁目1番地4		
自己評価作成日	令和5年11月16日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和5年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、自治会に加入していて、回覧板の受け渡しなどで、近隣住民と顔なじみの関係ができています。地域の方のご自宅の家庭菜園の収穫作業をお手伝いさせて頂いたり、おすそ分けを頂くこともあったりと、近隣の方との交流が年々増えてきているように感じています。
身体拘束ゼロに向けての取り組みでは、全職員が言葉での拘束を常に意識しながらケアの実践を行っている。ケアの中で、不適切ケアに当たるような言動があった場合は、職員同士で気軽に注意しあえるよう環境作りにも努めている。感染症が収束せず、未だ安心できない状況にあるが、利用者・ご家族の事を最優先に考慮し、感染症対策を万全に面会や外出の支援を行っている。お墓参りや、ご自宅への一時帰宅等、ご家族の協力のもと、利用者の希望に沿った柔軟な支援ができるよう努めている。また、利用者とのコミュニケーションの時間を重視して、業務の空き時間に隣に座って時間を共にし、利用者の意向や希望を聞きだせるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念を基に一人ひとりの利用者に関わり、一人ひとりの尊厳を大切に安心安全で楽しい時間が過ごせるようにケアの実践に取り組んでいる。身体拘束に関して定期的なチェックシートを利用し振り返りの機会を作っている。管理者は利用者の声に耳を傾けケアのあり方を「利用者の声ボックス」を利用し話し合いを行っている。職員に対しても働きやすい環境作りを検討を重ねている。地域においても自治会に加入しオレンジカフェなどにも通い、近隣住民の菜園の手伝いにも行かれ日常的な交流が図られている。利用者もそのような環境の中穏やかにゆったりと過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につきやすい場所に掲示している。又、職員会議の際に理念を読み上げるなどして、理念を共有できるように取り組んでいる。	設立2年目で変更した理念を現在も使用している。分かりやすい言葉で作成しており職員の目に付くところに掲示している。職員会議でも話し合い理念に基づいたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な出張美容室・月に1度のオレンジカフェなどを通して地域の方との交流の場ができています。運営推進会議では、民生委員の方が地域の情報を教えてくださる。その他、ご近所の方のご自宅の畑で育った野菜の収穫作業をお手伝いをしたり、野菜のおすそ分けをいただいていた。	自治会に加入している。回覧板の受け渡しは利用者と一緒にしている。オレンジカフェにも参加し近所の菜園の手伝いも行っており日常的な交流が行えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やオレンジカフェの場で、地域の気になる高齢者の事を報告させて頂いたりして情報共有している。また、近所の方と話す機会がある時は、当施設の取り組みや利用者の生活状況などを紹介させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、包括支援センター職員・民生委員・ご家族に出席していただいている。その場では率直な意見が出にくいことも考慮して、資料の中に「ご意見メモ」を添付し、後日ファックスにてご意見を頂くようお願いしている。	2ヶ月毎に事務所にて開催している。包括職員、家族、民生委員、地域住民がメンバーであり「ご意見メモ」を活用している。感染対策を行いながらのドライブや外食、面会制限などの意見に柔軟に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や、確認したい点等がある場合は、市町村窓口で連絡・相談をしている。毎回分かりやすいアドバイスを頂いている。	施設長は直接市担当課へ出向き、管理者は主に電話にて連絡相談を行っている。介護報酬改訂時やケアプラン、目標設定などの相談を行うなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に積極的に取り組み、施設全体で身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。研修会では、チェックシートを用いて日々のケアを振り返る機会を設けている。	外部講師を委託するなどし年2回以上の研修を行っている。定期的にチェックシートを用いて振り返りの機会を設けるなど身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会では、主に心理的虐待やネグレクトに着目して知識を深める取り組みをしている。不適切ケアに早期に気づき、虐待の芽を摘むよう、職員全体で努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用を必要とされる利用者がいないため、積極的に学ぶ機会は設けていない。今後、必要に応じて様々な制度について学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、認識不足を防ぐため、ご家族の疑問や質問に丁寧にお答えすることを意識して、十分な納得と同意を頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、日ごろから利用者とのコミュニケーションを重視し、意見や要望を聞き出すよう努めている。また、利用者の声に耳を傾ける取り組みの一つとして、利用者の声ボックスを設置した。	「利用者の声ボックス」を設置し利用者の声を反映させられるよう取り組んでいる。内容は管理者しか見ず職員全体で話し合い改善に繋がっている。日常的に利用者、家族の意見をくみ取れるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を聞き出せるよう、現場に出向き、情報共有に努めている。職員からの意見やアイデアには耳を傾け、なるべく取り入れるよう取り組んでいる。	管理者は申し送りや業務にも参加し職員の意見を聞き出せるよう努めている。職員の負担軽減対策にと休憩時間や業務時間の変更に取り組んでいる。管理者が施設長に申し職員意見が反映できる体制が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の能力、実績等を把握し、向上心を持って働けるような職場環境の整備を実施できるよう施設運営に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所や職員個々のスキルアップに繋げるために、必要な研修等に職員が参加できるよう勤務の調整等のフォローを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインでの研修会が多かったが、様々な研修会を通して同業者と交流をすることができた。今後は、多職種交流会などにも参加して、連携を図りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前の面談時に、ご本人に困っていることや不安なことに耳を傾け、関係作りに努めている。又、ご家族や前ケアマネさんにセンター方式シート記入の願いをし、事前に本人の今までの暮らしや、想いを受け止める取り組みに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前・及び入所時にご家族との時間を確保し、要望や不安に思っていることを聞く機会を設けている。また、ご家族が話しやすい環境作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の要望を踏まえつつ、本人に最も適した支援を提供できるよう努めている。また当事業所でなく、他のサービス利用が適当と思われる場合は、適当と思われる他サービスを提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、業務の合間に利用者の隣に座り、時間を共に過ごし、会話の時間を楽しむようにしている。利用者と職員が共に料理や家事をすることで、共に支え合う関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が少ないご家族や、遠方にいるご家族には電話を繋ぐなどして、本人とご家族の絆を大切にできるよう支援している。また、面会時や、担当者会議の際にはご家族の思いに耳を傾けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、お墓参りに出かけたり、ご自宅に帰られたりした。外出時は、感染症予防のため飲食は控えていただいたが、ご近所さんやお孫さんに会われていた。行きつけだった飲食店に出かける予定も作っている。	家族の協力にて墓参りや外食などの外出支援が行われている。馴染みの店のお寿司を食べたいが家族の同行が困難な場合は管理者が同行する計画が立てられ関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話で、理解しづらそうにしている時など、必要に応じて職員が介入し、利用者同士が関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期になり退居になった利用者が出た時は、ご家族や入院先の職員と連絡を取り、経過をフォローできるよう努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、利用者との個別の時間を確保するよう努めている。会話の中で、本人の希望や意向があった場合は、耳を傾け、ご家族のご協力を頂きながら、検討するよう努めている。	日頃より利用者との時間を作るように努めている。散歩や買い物、着替えの時や夜勤帯で意向を聞くようにしている。難しい利用者においては職員間の情報を共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、前ケアマネから情報収集し、一人一人の生活歴を把握できるよう努めている。入居後でも、ご本人やご家族との関りの中で、生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力や、心身状態に応じた支援ができるよう努めている。日々の中での小さな変化や、気になる点については申し送りで確実に伝達し、職員全体で把握できるよう徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を、職員がそれぞれの視点で記入し、利用者の把握に努めている。プラン更新時には、職員全員でモニタリングに取り組み、プラン作成時の参考としている。本人やご家族の意見も、プランに反映できるよう努めている。	毎月モニタリングを全職員で行い3ヶ月か6ヶ月毎に見直しを行っている。職員意見、利用者の目線で日々の記録を行い介護計画を参考にし、現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は、●○を用いて記入し、職員全員で状況の変化に気づけるようにしている。個人記録表の見開き部分には計画書を綴り、サービス内容に応じた記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナル期や、食事介助に時間を要する方が増え、職員不足が原因で十分な介助が困難な時は、臨機応変に業務を変更したり、職員の勤務時間を微調整するなどして、利用者の状況に応じて柔軟な支援ができるよう努めている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「大塚台」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度のオレンジカフェでは、地域の高齢者の方との交流を楽しんでいる。また、移動スーパーでは、日用品や嗜好品を思い思いに購入し、買い物を楽しんでいる。ハロウィンやクリスマス会では、近所の保育園児が訪問して、交流の場となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望で、入居前からのかかりつけ医を利用されている方もおられる。ご家族同行で受診される際は、施設看護師が連絡表を記入し、情報共有がスムーズにいくよう取り組んでいる。	かかりつけ医の受診は情報提供書と連絡票を作成し家族の支援で行われ情報共有が行われている。その他の利用者は毎月協力医の往診を受けている。全員入居時に協力医を受診し、緊急時や入院時には臨機応変に適切な医療を受けられる体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は排便の状態や睡眠状況など、細かな気づきでも記録に残し、重要な点は申し送りにて伝達している。緊急時と判断した場合には、施設看護師に電話連絡をし、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、その日のうちに入院先の病院に情報提供書を持参し、安心して治療を受けられるよう支援している。退院時には、ご家族と一緒に退院時カンファレンスに出席し、退院後の生活がスムーズにいくよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方については、入居時に指針を説明し同意を得ている。利用者のその時々状況に応じて、ご家族・主治医・職員との連携を密にし、チームでの支援に取り組んでいる。	重度化や終末期については入居時に指針の説明を行い同意を得ている。家族とはその都度話し合いを行い、職員は職員会議などで情報の共有を図っている。勉強会等も行いチームでの支援に取り組み看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に、応急手当や初期対応についての訓練・研修を受け、誤嚥・怪我等に対応できる技術を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、全職員が災害に備えている。災害発生時に備えて、水や食料品を常備している。	定期的な災害訓練、通報訓練を行っている。備蓄も準備している。自治会長、近隣住民にも依頼を行い協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、利用者の尊厳を守る言葉かけを意識している。人格を尊重していないような声掛けがあった時は、言い換えの言葉を皆で検討するなどしている。	全職員が言葉掛けを意識している。親しき仲にも礼儀ありで声の大きさにも気を配っている。指示的な声掛けにならないよう気を付けトイレや入浴時にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの際に思いや希望を引き出せるように努めている。また、日ごろから希望や好みを把握できるよう、コミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のスケジュールが強制的なものにならないよう、起床時間や消灯時間などなるべく本人の生活スタイルに合わせている。また、その日の体調や気分に合わせて、柔軟な対応ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室で、白髪染めをされる方には美容室への送迎をしている。朝は鏡の前で、洗面・整髪をしていただけるよう支援している。男性利用者は入浴時に髭剃り介助、入浴後は保湿クリームを塗布している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、旬の食材を話題にしてメニューを考えることもある。夏は、梅干しや冷や汁作り、冬は干し柿を利用者と一緒に作ったりと、職員と利用者が一緒に食事を楽しめるよう努めている。	夜は配食サービスを利用している。献立はないが職員が工夫しメニューを考えている。利用者もお盆並べやテーブル拭きなど出来ることのお手伝いをし、おやつ作りなどを一緒に作り食事を楽しむ支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶を好んで飲めない方には、個々の嗜好に合わせてジュースやスポーツドリンクを提供している。また食事が摂れなかった方には補食を提供するなどして、カロリー不足にならないよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただいている。磨き残しがある場合は、糸ようじや歯間ブラシを用いて職員が仕上げ磨きをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員間で共有し、声掛けやトイレ誘導などを実施し、トイレでの排泄を促している。また、利用者一人一人の状態に合わせてパットの種類や大きさを協議している。	個人記録表にて排泄パターンを把握し日中はトイレ誘導を行っている。パットの大きさ等も検討しオムツやリハパンに頼らないよう排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に対しては、牛乳や乳酸飲料などを提供し、便通を良くする取り組みをしている。また、廊下歩行や体操を促すなどして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ゆっくりと湯船に浸かりたい利用者には入浴日をずらして入っていただいたり、入浴日以外で失禁などがあつた場合は、その日に入浴を実施するなどして柔軟な対応に努めている。	週2回の入浴となっている。現在週4回の入浴も検討している。拒否の方には清拭や足湯等を行っている。ゆず湯や入浴剤等も使用し柔軟に対応しながら入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を共有し、必要に応じて1時間ほどの午睡を促したり、日中の活動を促したりしている。また、夕方には気温に応じたパジャマに着替えたり、寝具を調整することで安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬説明書を職員全員が閲覧できる場所に管理している。薬の変更や調整があつた場合は、申し送りノートに記入し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の掃除や家事をなるべく利用者と一緒に実施し、張り合いを持って生活ができるよう支援している。また、嗜好品やご家族からの差し入れがあつた際は、他利用者に配慮し、居室で食べていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症蔓延が常に懸念される中だが、ご家族と同伴の元、お墓参りや一時帰宅をしていただいた。家族の支援が少ない利用者に対しては、オレンジカフェやドライブに行けるよう支援している。	日常的に散歩を行っている。毎月事業所前に来る移動スーパーは楽しみで買い物をしている。近くの店での買い物や定期的に美容室に行く利用者もいる。オレンジカフェにも出向き日常的な外出支援が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預り金は、医療費やお薬代、おむつ代などに使用していて、定期的にご家族に確認・サインを頂いている。また移動スーパーの際はそれぞれ必要なものや嗜好品を購入していただき、ご自身で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方にいる利用者は、毎日のように携帯電話に連絡があるため、携帯電話の充電や、受け取りの介助をしている。また、昔の知人にはがきを出されるのに、代筆を頼まれることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食卓に季節に応じた花を飾ったり、ホールや居室には温度計を設置し、利用者にとって快適な空間が維持できるように努めている。	職員が季節に応じた花を持ってきて飾っている。温度計や湿度計を設置し適温になるよう気を配っている。座る席にも食事時やお茶会でテーブル数を変更するなど居心地よく過ごせる工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、利用者が気軽に座れるようなソファを数か所に設置していて、利用者がその時の気分で気の合う利用者と雑談できたり、一緒に時を過ごせるようにしている。また、利用者一人一人が、落ち着いて過ごせるように食卓席の場所を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いた環境で、過ごしていただけるよう、大切な人の写真や、ご家族からのお手紙を飾ったりしている。また、個々の能力や生活習慣に合わせて家具の向きや配置を検討し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の写真や手紙を飾ったり家具、本棚を持ち込んでいる利用者もいる。娘が図書館で本を借りてくる利用者もおりそれぞれが居心地よく過ごせる工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクの高い利用者の居室に、利用者の動きに応じて突っ張り型の手すりを設置したりして利用者が安全に動けるよう支援している。		